

ブロックチェーンによる暗号資産は暗号鍵が盗まれると、すべて失ってしまう可能性があります。量子コンピューターはこれからどんどん当たり前のものになっていくと思いますが、量子コンピューターの安全を、量子コンピューターで作った技術で守っていくことも当たり前の世の中にしていき、世界市場で戦える会社を作っていくために、ぜひご支援いただければ幸いです。



2023年設立。CEOの杉浦 祥氏は、東京大学、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、NTTで13年間量子コンピューターの研究経験に携わった経験を持つ。"ポスト量子時代のセキュリティネットワーク"として、暗号資産の保護を目的とした量子耐性ソリューションの開発、展開に挑戦している。技術の核は量子コンピューター上で生成したブロックチェーンだ。

株式会社Blocq, Inc
CEO

杉浦 祥



SF映画に出てくるホログラム映像のような立体映像を作っています。立体映像でコミュニケーションができるようになると、スマートフォンなどを通じたやり取りに比べて、情報量が格段に増えます。このICTスタートアップを通じて開発を進め、実用化し、世界の市場に向けて私たちの製品を売っていきたくて思っていますので、応援よろしくお願いいたします。

株式会社ブライトヴォックス
代表取締役 CEO

灰谷 公良

brightvox

2022年2月設立。映像機器の研究開発、イベント企画運営、コンサル事業を展開している。現実空間にデジタル映像を立体配置する「brightvox 3D」や、アバターなど体積を持つデジタルコンテンツを立体的に出力する「Volumetric Display」など、すでに複数のプロダクトを展開している。株式会社リコーの社内ビジネスコンテストTTRIBUSで起業家賞を受賞したことから事業が始まった。



AI画像認識で眼科健診を効率化するソリューションを開発しています。緑内障の検査に必要な視野検査が通常5分かかるところ、5秒で終わるようにすることに挑戦していきます。このソリューションを僻地の病院さんにも導入したいと思っていますし、世界に展開できるポテンシャルを持っていると思っていますので、ご支援よろしくお願いいたします。



2016年5月に合同会社として設立。眼科向けの画像診断支援AI「疾患名候補表示AI」を開発しているほか、眼科向け遠隔読影サービスを提供している。疾患名候補表示AIは、眼科診療時に撮影した画像から診断候補を確率とともに提示する。遠隔読影サービスは他社のプラットフォームに組み込まれてサービス化されており、読影医不足の解消や、読影医による診断結果のばらつき防止に貢献している。

DeepEyeVision株式会社
取締役CTO

近藤 佑亮



「DAIAL」は、極限まで細かいカスタマイズができることが特徴の英会話アプリです。例えば、「海外支社とのミーティングやプレゼンテーション」といった具体的なシーンを設定した上で学習を進めることができます。日本人向けにビジネスに特化した、カスタマイズ性のある英会話アプリは日本初です。女性としての最年少上場も目指していきたいと思っています。

株式会社ファボテクノロジー
共同代表取締役

石塚 つばさ

favo technologies

生成AIを活用したプロダクトを提供するテクノロジー企業として、2024年4月に設立。動画と音声でAI講師からリアルな英会話を学べるパーソナライズAI英会話アプリ「DAIAL」を提供するほか、AI開発、DX、新規事業開発領域に関するコンサルティング事業を提供している。共同代表取締役の石塚 つばさ氏はミスユニバースといった世界的ミスコンのファイナリストに選出された経験を持つ。



ICTスタートアップリーグとは？ 公式サイト <https://ict.startupleague.go.jp/>

ICTスタートアップリーグは令和5年度からスタートした、総務省「スタートアップ創出型萌芽的研究開発支援事業」を契機とし、総務省とスタートアップに知見のある有識者、企業、団体などの民間が一体となり、ICT分野におけるスタートアップの起業と成長に必要な支援と競争の場を提供するプログラムです。

- 出資とリターンを求めるだけの支援ではなく、中長期ビジョンという観点で、
 - 伴走支援や人材紹介、そして国費によるサポートを行う「支援」
 - VCのマッチングやピッチの機会を用意し更なる飛躍をサポートする「出資」
 - 自身のビジネスに磨きをかけるための「競争」
 - 取組を多くの人に知ってもらい、応援者を増やし、またスタートアップへの憧れを醸成するための「発信」
- の4つを軸にスタートアップエコシステムを構築し官民一体となってリーグとして支援を展開します。



ICT
STARTUP
LEAGUE

ICT STARTUP LEAGUE

ICTスタートアップリーグ 採択企業全社の情報を 代表者コメントと共に紹介！ 第一弾

→キックオフイベントでは、壇上にはなかった採択者たちが抱負を語った。



日本をICTで変える期待の採択者たち
採択者が選出され、来年の成果発表に向けていよいよ動き始めたICTスタートアップリーグ2024。7月に開催されたキックオフイベントでは、採択を受けた企業や個人の代表者26名が、デロイト・トーマツのイベントスペース「Deloitte Tohmatsu Innovation Park」に集まり、成果に向けた意気込みや豊富を語った。本誌では今号と次号の2回に渡って、採択者全社紹介として、各社の事業内容と、キックオフイベントで語られた代表者のコメントを抜粋して紹介していく。ICTでこれからの日本を盛り上げていこうとする期待の採択者たちは、いま何を思っているのか。

私たちは主に民間の企業さまと、行政の仕事を可視化するという事業に挑戦しています。いま、自分達の事業がどのようにいい変化を及ぼしているのか、悪い影響を及ぼしていないかを知りたいというニーズは高まっています。現在、インパクトの指標をどう作るかという点に課題を感じており、ここで出会った皆さんとお話ししながら、その指標を作っていければと思っています。

and
PUBLIC

2023年1月30日に共同創業。「公共の力をともに革新しよう」をコンセプトに設立された、ガブテックカンパニー。日本中で行なわれている社会課題解決に向けた試行錯誤をテクノロジーの力で保存・共有し、公共の力をともに革新していくことを目指している。共同代表取締役の桑原 憂貴氏は、過去に震災復興のためのリノベーションワークショップの企画運営会社なども設立した経験がある。

アンドパブリック株式会社
共同代表取締役

桑原 憂貴



サイバーセキュリティは、現在非常に注目されている領域です。私たちは特に対策が難しいとされている人にまつわる在弱性に対する対策を、ブロックチェーンを用いて提供していきます。サイバーセキュリティの先進国とされるイスラエルに開発拠点を置いています。この技術を世界に発信していき、さまざまな領域の日本のスタートアップを盛り上げることに貢献したいです。

AironWorks株式会社
アナリスト

浅井 正史



イスラエルで研究開発を行なうテクノロジーを用いて、企業に必要なセキュリティレベルの向上を実現する「超実践型サイバーセキュリティ訓練」を提供している。代表者の寺田 彼日氏は2014年、イスラエルで「Aniwo」というイノベーションプラットフォーム企業を設立。その時期に出会ったGonen Krak氏をCTOとして招き、共同創業したのがAironWorks株式会社だ。



私たちの技術は金のナノ粒子の見えない光を使って、安心や安全を保障するというものです。ITの分野と組み合わせると、ものすごく大きな力を発揮するものと思っていますので、ここに集まっている若い皆さんともビジネスで一緒にできる機会があればうれしいです。現在は、ヨーロッパの現地法人の設立も目指しておりまして、現地のイベントに出展したりもしています。



令和4年4月創業の、京都大学発スタートアップ。化学・物理・薬学という背景の異なる大学に所属する3名が出資して設立した。色素を使わないセンシング分析技術や、それを応用したサプライチェーンセキュリティのための極小サイズのステルスタグを開発している。光の波長よりも小さな金ナノ粒子に含まれる「プラズモン」と光が技術のコアで、高精度と低コストを両立するという。

アーカイラス株式会社
代表

福岡 隆夫



気球による宇宙遊覧サービスを提案しています。気球を使って、地上から成層圏まで、ゆっくり登って、ゆっくり降りてくるサービスです。これまでに複数の実証実験を重ねており、今年には地上20キロメートルまで人を乗せて飛び実験にも成功しています。できれば今年中にサービスの提供開始まで進みたいと考えていますので、ぜひご注目いただければ幸いです。



「誰でも頑張れば用意できる費用のみ」で、特別な訓練を必要とせず気軽に手軽に宇宙遊覧に出かけることを可能にする技術を開発。幼児から年配者まですべての人を“宇宙の入り口”である成層圏まで運ぶ「宇宙遊覧」の定着を目指し、開発と事業化を続けている。代表取締役の岩谷 圭介氏は大学で航空宇宙工学を専攻。2014年頃に研究の成果を事業化し、2016年に株式会社岩谷技研を設立した。

株式会社岩谷技研
経営企画部

北條 智也



交通事故や転落で運ばれくる患者さんは、重症の場合、病院の現場に到着してから15分で措置がとられなければ命を落としてしまうと言われていますが、現状では、トリアージに15分の内の3分の1程度を使うのが一般的です。この5分を、AI技術を使ってより正確に、より早くしていくことを目指しています。ここで切磋琢磨して、優れた技術を提供していきたいと考えています。



救急の現場で活用する医療用AIを開発している。技術の実装によって、「防ぎ得た死」のない世界の実現を目指すことを理念とし、全身のCTをAI技術で補完する「救急外傷全身CT重症度評価装置」や新型コロナウイルス感染症患者を正確に素早くトリアージするためのCT画像を用いた診断AIモデル「COVID-19診断AIモデル」などを提供。知見をもとにしたDX支援事業も展開している。

株式会社fcuro
取締役CTO

井上 周祐



「Mati-wabi (マチワビ)」は、ブロックチェーン技術を使ったアプリです。私たちは「待ち侘びる」ことに注目しています。イベントを待っているあいだは楽しみな時間ですが、有効に活用できているとはいえず、そこには、これまで見えなかった価値があると思います。これを可視化して評価することを、ブロックチェーンを技術を使って実現していきたいと考えています。

MeTown株式会社
代表取締役

田中 一弘



まちづくり・地方創生領域で活動するweb3スタートアップ。展開するサービス「Mati-wabi (マチワビ)」は、イベントを「待ち侘びる」期間に、イベントに参加予定のファンと共創できることをコンセプトとしたサービスで、ユーザーは、応援用のデジタルグッズの購入を通じて「推し」に投げ銭をしたり、ポイントを取得できるSNS拡散ミッションに参加したりすることができる。

耳が聞こえない人は日本国内に2400万人ほどいるとされています。補聴器には限界があり、音は聞こえやすくなりますが、肝心の声を聞き取る能力は脳にも関係しており、補聴器の技術だけでは解決し切れないのが現状です。会話の内容を可視化して、ARに表示しようというのが、私の発想です。法改正も必要になりますので、その部分についても働きかけていきたいです。



ろう者（聴覚障害者）の情報アクセシビリティの向上を目指したソリューションを開発。屋号の「signers (サイナース)」は「手話話者たち」という意味を持つ。手話を第一言語とするろう者だけでなく、家族・親族・知人など身近に聴覚障害者がいるユーザーたち、手話通訳に従事するユーザーなど、日常的に手話を使う人に向け、ARグラスを用いたサービス展開を目指す。

signers

那珂 慎二



私たちは、まったく新しい発想で自動運転を実現させようとしています。センシングにより作ったデジタルツインをベースに、(ロボットのいる場所の)外から動かすという発想です。この技術を使って、ラストワンマイルを快適にしたり、日本の大きな問題である労働者不足を解消していくことを目指していきます。皆さん、これからどうぞよろしくお願いします。



芝浦工業大学発の第1号認定ベンチャーとして、新熊 亮一教授が2022年に設立。シニアカーや電動ホイールチェアといったパーソナルモビリティや、搬送ロボットの自動運転を提供している。複数のLiDAR (レーザーによる検知と計測) によるキャリブレーションと統合、死角の抽出技術、空間情報の将来予測技術といった情報を組み合わせた「ハイパーデジタルツイン基盤」が特徴的。

株式会社
ハイパーデジタルツイン
COO

長谷川 大貴



ICTの力を使って日本を元気に

ICTは政府も注目する分野。総務省では、ICTが日本の経済成長と国際的な貢献に寄与するものとして、平成20年代から戦略会議などの開催を通じてICTに関する施策を実施してきた。今回のキックオフイベントでは、総務省大臣官房審議官で、国際技術・サイバーセキュリティを担当する近藤 玲子氏も登壇。「これからICTの分野でどんな日本を元気にしていかなければならない状況の中、斬新なアイデアを持つ皆さんが揃ってくれ、力強く思っている。総務省としても(ICTスタートアップ)リーグを通じてスタートアップ企業を支援しながら、皆さんと一緒に日本を元気にしたい」と、プロジェクトの本格スタートにコメントを寄せた。

なお、今回紹介した採択者たちは今後、専門家による起業・開発・実用化への助言のほか、人材確保のサポート、ピッチやマッチングイベントの開催、実用化に係る事務的な支援(購買、物品管理、特許取得サポート)、開発や起業ノウハウに関する勉強会といったサポートを受けながら、事業化や事業のさらなる発展に向けて進んでいくことになる。現在は、2025年3月の成果報告会に向けたゴール

眼科医師として検査をしていると、子どもの100人のうちの1人は弱視で、特別な訓練をしなければ生涯にわたって視力が戻りません。しかし、この訓練を嫌がるお子さんも多いという課題があります。そこで、私たちはVRを使った弱視の訓練として、ゲームをしながらトレーニングできる仕組みを開発しました。国内と、海外での展開を支援していただければ幸いです。

InnoJin株式会社
代表

猪俣 武範



順天堂大学発ベンチャーとして2020年12月に設立。「人にやさしい」医療を提供することを理念に、健康・医療・介護の分野で事業を展開している。社名はInnovation (イノベーション) と、おもいやり、いつくしみという意味の仁 (Jin) を掛け合わせた造語。「異端となることを恐れず、独創的な挑戦をする」異能人という意味も込めている。花粉症研究のためのアプリ「アレルサーチ」などを提供。



キックオフでは採択者同士の交流も

キックオフイベントは、採択者や運営委員会、関係者たちの懇親会も兼ねるカタチで実施された。ICT分野のスタートアップという志を同じくする者同士ということもあり、話も弾んでいる様子だった。ICTスタートアップリーグ2024自体は来春の成果発表までのプロジェクトとなるが、プロジェクトを通じて切磋琢磨する中で生まれるつながりや交流は一生もの。世界に大きな変革をもたらすような、採択者同士のシナジ



→「皆さんと日本を元気に」と話す総務省大臣官房審議官の近藤玲子氏。